

個人体質に合う薬品を

弘大と大正製薬 共同研究講座開設

岩木健康
データ活用

3テーマで開発へ



共同研究講座の看板を掲げる福田学長（左から2人目）と高橋セルフメディケーション研究開発本部長（同3人目）ら

弘前大学（福田真作学長）と大正製薬（本社東京都、上原茂代表取締役社長）は、共同研究講座「プレシジョンヘルスケア学講座」を開設した。弘大が誇る岩木健康増進プロジェクトの健康ビッグデータと、セルフメディケーションに関する医薬品開発を主力事業の一つとする同社独自の治験等を掛け合わせ、予防・予兆の観点から個人の体質や状態に寄り添った薬品の開発を目指す。（石田紅子）

大正製薬はセルフメディ「薬品」を主力に開発、販売
ケーション事業において、しており、ドリンク剤や風
医師の処方箋なしに薬局な 邪薬、発毛剤などが知られ
どで購入できる「OTC医 ている。

行われた。講座は1日付で
同研究科内に設置し、中路
特任教授を筆頭に10人で構
成する。契約期間は202
4年3月31日までの3年
間。同研究科が行っている
共同研究講座としては15例
目。

特任教授は「風邪を引きや
すい人か否か、疲れやすい
人か否か、毛髪が抜けやす
い人か否かをビッグデータ
と掛け合わせることで、ど
ういう人が（各条件に）当
てはまるのか解析し、一人
ひとりに合った薬を開発す
る」と説明した。

中路特任教授らが取り組
むQOL（生活の質）健診
の中で活用する方針である
ことも紹介。QOL健診は
野菜摂取量や口内環境、メ
タボリックシンドロームな
どを見る健康教育・啓発プ
ログラム。その場で健康レ
ベルが分かり、結果を見な
がら勉強できる新たな取り
組みといい、中路特任教授
は「この時に講座の研究結
果をアドバイスに使い、開
発した薬を勧めることがで
きればさらに短命県返上に
直接役立てられる」と展望
した。

弘大医学部で27日、福田
学長や大学院医学研究科の
中路重之特任教授、同社の
高橋健三セルフメディケー
ション研究開発本部長ら10
人が出席して設置開設式が

講座では①風邪②疲労③
毛髪④の三つをテーマに、
3000という膨大な検査
項目を持つ岩木健康増進プ
ロジェクトのビッグデータ
を活用して、個人の体質や
状態に合わせて内服する薬
品の開発に取り組む。中路

同社の高橋セルフメディ
ケーション研究開発本部長
は「予防、予兆の観点から
病気に強い体への体質改善
につながる研究開発にした
い」と抱負を述べた。